

会報

# 熊本県日中協会

平成23年  
12月発行

《発行》  
熊本県日中協会  
会長 柏木 明

《事務局》  
〒860-0846 熊本城東町4-2  
熊本ホテルキャッスル2F

Tel 096-356-4847  
Fax 096-325-2829

通刊81号

～さらなる友好の絆を～



## 滔天の支援に感激

留学生や会員ら孫文の足跡訪ねる

辛亥革命百周年を記念した「孫文先生の足跡を訪ねて」のツアーが10月16日(日)あり、バス2台に分乗してゆかりの地を回り、偉大な業績を偲びました。県日中協会主催。

参加したのは日中協会会員と中国人留学生10人、それに熊本機能病院へ交流・研修に訪れていた広西壮族自治区の医療関係者など約80人。

孫文が生徒たちの前で演説した濟々巒、産業視察した万田坑、宮崎滔天の生家。で今は兄弟の業績を集めた宮崎兄弟資料館を見学。最



アトラクション  
大迫力の少林寺  
拳法演武

三井港倶楽部は、明治41年に建てられ、三井家の迎賓館として利用された建物。孫文一行もここで昼食をとりました。



炭鉱節では、中国からの来日団も大喜び。会場は大変盛り上がりました。



濟々巒高校敷地内の歴史資料館で熱心に見学する参加者達

後は天水町小天・草枕交流館。ここは中国革命の志士・黄興など多くの同志が訪れた前田家山子の別邸の跡地。



当時最先端の技術を誇った万田坑



宮崎兄弟の生家では、安田信彦館長自ら解説していただきました。

孫文や黄興の書も残っており、宮崎兄弟記念館とともに、参加者は興味深そうに見入っていました。

宮崎の梅谷庄吉は知っていた。行きバスと濟々巒では片岡正実・東海大教授が孫文を詳細に説明。旧三井港倶楽部での昼食には前畑淳治、荒尾市長も加わり、炭坑

節を中国の人たちと一緒に踊り、歓迎ムードを盛り上げました。

中国人留学生たちは「長崎の梅谷庄吉は知っていた。宮崎滔天のことは初めて知った」と、認識を新たにしたい機会を作っていただき、ありがとうございます。と感激した様子でした。

## 第30回 熊本春節祝賀会

◎日時 平成24年2月21日(火) 午後6時より

◎会場 熊本ホテルキャッスル

◎会費 一万円

中国人留学生百人を招待して、盛大に新年を祝い、交流します。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

# 孫文の偉大さに感銘

## 辛亥革命百周年「ゆかりの地訪中国」

熊本県日中協会の辛亥革命百周年記念事業、「孫文ゆかりの地を訪ねる旅」(高野正博団長以下21名)が11月11日(金)から2泊3日の日程で上海・南京の孫文関連施設を訪れました。一行は上海国際浦東空港から貸し切りバスで南京方面へ。途中、江蘇省の周荘を見学しました。



中山陵(孫文の墓) 訪問した11月12日は孫文の生誕記念日で、多くの観光客で賑わっていた。



孫文の墓室 この地下深くに棺が安置されている。



水運の要衝として 発展した周荘

孫文故居記念館の孫文の銅像には、誕生日を祝う花が供えられていた



上海国際機場賓館で上海熊本県人会との交流会



宋慶齡陵園でガイドの説明を聞く訪中団員ら



宋慶齡故居 中は撮影禁止

さな櫓付き船から、船頭の歌声が聞こえてきて、情緒ある風景でした。古い民家を利用した土産物屋がぎっしりと並び、訪中団員は買い物、散策を楽しみました。夜は南京の宿泊ホテルで高野団長が以前から交流を続けている南京中医医院の皆さんとの交流会を開催。荒尾市提供の孫文と宮崎滔天の関係を説明したDVDを映写し、熊本と孫文との縁を説明しました。

翌12日は、孫文の資料が展示されている孫中山記念館と中山陵へ。バスで山中腹まで移動し、後は徒歩で。広くて長いならかな坂をずっと上った先に、さらに階段。歴代のどの皇帝の墓より広大なスケールの陵墓です。無錫市郊外の中国で4番目に大きな湖、太湖では、遊覧船でのんびり。現地ガイドの姜さんが日本語で歌ってくれた「無錫旅情」には一同拍手喝采。上海での夜は、上海在住熊本県人会の皆さんとの交流会を、今年10月に活動を始めた上海熊本事務所メンバーも招待して開催しました。同会との交流会は、これで3回目。久しぶりに

会う方も、初めての方も、熊本人同士、和気藹々の雰囲気でした。最後の日、宋慶齡陵園(孫文夫人のお墓がある公園)、宋慶齡故居を見学。上海孫中山故居記念館には、荒尾の宮崎滔天宅での集合写真も展示されていました。孫文や宋慶齡がいかに中国で尊敬されているかや、辛亥革命についての知識を深める旅となりました。



南京中医医院との交流会で挨拶する高野正博団長(右)

夢タウン 四季の郷 ファームランド中九州

NPO四季の郷 検索

**仲間募集!**

あなたも一本園主になりませんか?

平成24年度より

オーナー募集開始!

NPO法人四季の郷 「福祉、環境 & 農業研究会」理事長 原田正典  
〒861-0511 熊本県山鹿市熊入町234-3  
TEL 0968-44-1070 FAX 0968-44-1070

株式会社

**熊本硅砂鋳業**

Kumamoto Silicasand Industry Co., Ltd.

〒861-0821

熊本県玉名郡南関町大字下坂下4777

TEL 0968-53-9331

FAX 0968-53-9292

# 両国の課題 熱く語る

MUSASHI会・県日中協会

～保健・医療・福祉フォーラム～



会場には二つのスクリーンを用意。日本語版と中国語版で資料を展示して口演が行われた。

崇城大学内の慶賓館で行われた昼食会。窓からは新幹線が望めます。



日中保健・医療・福祉フォーラムが10月15日(土)、崇城大学学術講演会室で開催されました。同フォーラムは崇城大学・

中山峰男崇城大学長、小野友道熊本保健科学大学長が県日中協会の常任理事で、米満弘之熊本機能病院理事長が同副会長でもあるため、県日中協会も共催、充実した催しとなりました。

米満副会長のご尽力で、中国から広西医科大学副学長、桂林市衛生局長をはじめとすると、40人を超える医療関係者が参加。本フォーラムの大会長を務めた柏木明県日中協会長の挨拶で始

まり、基調講演は米満氏が「日中間における保健・医療・福祉の交流について」、シンポジウム「日中保健・医療・福祉の現状と架け橋」(座長 中山学長、魏長年・熊本大生命科学学部准教授)では日本側2題、中国側3題で、幅広い領域の発表がなされました。

一般口演も両国から4題づつの発表がなされ、約300人の参加があり、盛況のうちに終了。プログラム・抄録集は2ヶ国語で表されており、効果的でした。フォーラムの後、中国側参加者と県日中協会役員をはじめ開催関係者との昼食会が崇城大学慶賓館で行われ、活発な交流がなされました。

## 今年も賑やかに 国際交流祭典 サロード新市街

グルメコーナー



パネルコーナー



11月6日(日)、初めて会場をサロード新市街に移し、「第18回熊本国際交流祭典」が開催されました。主催は県内で国際交流や国際協力活動を行っている団体で構成されている熊本県国際協会。県日中協会も会員団体として、『グルメ部門』と『パネル部門』に参加しました。

前日から中国帰国者の協力を得て、中国菓子の麻花(マーファー)と肉まんを手作り、グルメコーナーに出店。また、当協会の活動紹介や辛亥革命についてのパネルを作成してアーケード内に展示を行いました。

ステージでは様々なイベントが行われていた。



**上田兄餃子楼 桜木店 -UEDA ANI GYOZARO-**

**12/10 OPEN!**

**12/9(金)AM11:00プレオープン**

全国でも話題沸騰中のアノ餃子の名店がやってくる!

オーナー 上田アニ

詳しくは **上田兄餃子楼**

桜木店	熊本南店	三年坂本店
住/熊本市桜木1-2-21 営/11:00~25:00 <b>096-331-4211</b>	住/上田兄餃子楼 熊本南店 住/熊本市十津寺2-8-1 営/11:00~25:00 <b>096-352-3993</b>	住/上田兄餃子楼 三年坂本店 住/熊本市安政町5-8 営/11:00~25:00 <b>096-312-5141</b>

# 久々の再開楽しむ 中国帰国者大交流会 グリーンピア南阿蘇に120人

県日中協会が業務委託を受けている、熊本県中国残留孤児等対策協議会（三浦一水会長）の主催により、「中国帰国者大交流会」が10月2日、グリーンピア南阿蘇で開催されました。この交流会の開催は三年ぶり。同協議会が県内に在住している中国帰国者（日本に永住帰国した中国残留邦人とその家族）に呼びかけ、一二〇人が参加して行われました。

参加者は熊本市内と菊陽町の二か所の集会所からそれぞれ貸し切りバスで移動し、俵山交流館前の里で合流。ちょうど満開のコスモス畑を散歩したり、産地直売品の買い物をしてから南阿蘇の会場へ。会場では、バイキング形式の食事をしながら、互いの近況や家族のことなど、久々の再開に語り尽きない様子でした。



バスに乗って、さあ出発



満開のコスモス畑を散歩する参加者たち



食事はバイキング何を食べようかな？



カラオケ大好き



ステージで挨拶をする帰国者



ワイワイ・ガヤガヤと賑やかな会場話がはずみます。

近朱者赤，近墨者黒

朱に交われれば赤くなり、  
墨に交われれば黒くなる

中国のことわざ

県日中協会でも医療や孫文と滔天の活動を紹介する企画を実施。参加した中国の人たちにも、熊本との深いかわりを知り得る好機会となりました。当協会の大きな目的の一つを達成したと言えるでしょう。来年は当協会の創立四十周年、日中国交正常化四十周年。これを記念した事業を計画中です。また、会員の方の中国に関する情報もお寄せください。旅して新発見したり、思わぬ出来事など身近なことでも結構です。お待ちしております。

編集後記

（機関紙編集委員会）  
・小串 照彦